

地域自治センターだより

〔編集〕上田市真田地域自治センター 地域振興課 〒386-2292 上田市真田町長7178-1

有線2015 TEL0268-72-2200 (代表) FAX0268-72-4140

平成26年/2014 3.14 No.37

さなだ

S A N A D A

鬼は外! 福は内!



恒例の幸村街道会による豆まきが2月2日、ゆきむら夢工房で行われ、300人を超える皆さんで賑わいました。

武将姿の街道会の皆さんと、年男年女の皆さんが櫓の上から「鬼は外。福は内」の掛け声とともに豆をまきました。

年女として豆まきに参加した坂口絹子さん(真田)は、「健康に気をつけて1年を過ごしたい」と話していました。

また、豆まきの前にはTOKYO BOWZIによる公演やそば団子が入った幸村鍋が振舞われました。



- 3月 18日 真田中学校・菅平小中学校卒業式
19日 長・傍陽・本原小学校卒業式
20日 すがだいら保育園卒園式
21日 いずみ幼稚園卒園式
22日 さなだ・そえひ保育園卒園式
23日 2014シリーズ文化講演会(真田中央公民館)
- 4月 4日 小中学校入学式
- 5月 11日 真田地域体育祭
18日 御屋敷つつじ祭り

真田地域の
イベント&
スポーツ大会等

【ふれあいさなだ館イベント情報】

★入館料が必要です。

- 3月19日 ハーモニカ&コカリナ演奏 ハーモニーツみきさん他
- 4月16日 三味線と踊りの集い 三味線/藤本頼貴次会 踊り/竹本舞鶴会
- 5月21日 井出五男 歌謡浪曲ショー(予定)

イベントは全て大広間ステージで12:30から行われます。

▶定期開催 ●ヨガ&ストレッチ 講師 倉崎直子

3月19日・4月16日・5月21日(毎月第3水曜日)10:30~11:30

当日受付(予約不要)入館料とは別に参加料500円

☎ 真田温泉ふれあいさなだ館 有線2230 Tel72-2500

真田地域協議会だより

平成25年度第10回協議会（2月19日）から

平成24年4月からの第4期地域協議会のまとめとして、各分科会で協議してきた内容について最終報告がありました。

第4期地域協議会委員は左のとおりです。

分科会最終報告

第1分科会

「地域ブランドの確立」

1 はじめに

真田地域では「地域まちづくり方針」にある『魅力ある農業の推進』『特色ある観光の振興』に向け、其々の戦略プランが策定され

(敬称略)

第4期 真田地域協議会委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

(備考欄※印は選出団体の役員変更に伴う前任委員と任期)

	氏 名	選出団体等	備 考
会 長	半田 榮範	個人依頼	
副会長	関 貞徳	個人依頼	
第1分科会	田中 新平	公募	分科会長
	竹村 好平	真田町商工会	副分科会長
	一之瀬 勤	個人依頼	
	小林 満子	農村女性ネットワークさなだ	※若林ゆき子～H25.3.31
	古市 正明	傍陽地区自治会連合会	※半田 卓～H25.3.31
	堀内 朝子	真田地域長寿会	※牧野 雅子～H25.3.31
第2分科会	丸山 進	菅平高原観光協会	
	佐藤 論征	PTA真田地区事務局	分科会長
	山口 市江	真田地区民生児童委員協議会	副分科会長 ◎
	清水 茂	個人依頼	
	関 貞徳	個人依頼	真田地域協議会副会長
	山口 佳子	真田地域健康推進委員会	※竹村 尚美～H25.3.31
第3分科会	横沢 憲治	本原地区自治会連合会	※高寺 修～H25.3.31
	山宮 浩美	剣上市市体育協会真田町体育協会	分科会長
	長崎伊登子	真田町文化協会	副分科会長
	内海 美香	真田地域保育所連合保護者会	※佐藤久美子～H25.3.31
	下条 幹男	長地区自治会連合会（菅平）	
	半田 榮範	個人依頼	真田地域協議会会長
	松木 節子	さなだ共同参画ネットワーク	
	柳沢 章夫	長地区自治会連合会	※牧内 勝年～H25.3.31

◎ H26.1.1～松井よし枝

様々な取り組みが進められているが、その取り組みの効果を一層上げるために農業と観光の一体化した情報の発信が必要と考え、地域ブランドについて検討してきた。

地域ブランドの確立により、真田地域で採れたものが高く売れ、加工品が全国的に販路を拡大できれば、遊休農地の積極的な活用により地域農業の活性化につながり、真田氏をはじめとした歴史資産や素晴らしい自然など優れた観光資源に付加価値をもたらし、地域イメージの向上と共に地域産業の活性化と一層の観光客の誘客が図れるものと考えている。

2 現状と課題

議論の中、地域内で活動する様々な団体とその取り組み内容に着目し、それらの発展・活性化が糸口になるのではないかと次のように課題点を挙げた。

(ア)地域内で様々な活動をしている個人・団体が存在するが、各々の活動に留まり、互いを知らず、連携・協力ができていないのではないかと。

(イ)各活動団体の高齢化、後継者不足が深刻であり、リーダーシップを執る人材と地域内で中心となる組織がないことから地域の強みなどの特徴を活かした独自性溢れる視点到結につながらないのではないかと。

(ウ)ゆきむら夢工房や周辺施設でのイベントが単発であり、夢工房の施設を拠点としている各専門

部会と他の団体などがうまく連携せず、施設を有効活用できていないのではないかと。

(エ)地域のイベントなどの企画・運営において、行政主導・行政依存ではなく、地域住民自らが地域を考え、行動できる仕組みを作っていく必要があるのではないかと。

3 協議内容報告

以上のように課題点を整理し、次のように協議した。

(1)各団体の連携・調整・協力を図る仕組みづくり

真田地域で活動する各団体が、それぞれの活動だけでなく、互いを知り連携・協力して地域イベントなどに取り組める仕組みづくりが必要ではないかと。まずは、真田まつり実行委員会を中核として地域内に呼び掛け、定例的に横のつながりが取れる組織を立ち上げ、情報交換、イベントの開催日程などの調整からはじめ、将来的には各イベントを企画・運営する実行組織となり、一元的な情報発信ができることを期待する。将来的には信州上田まつり実行委員会とのつながりを深め、観光客が中心市街地と真田地域を互いに行き交い、滞在時間を増やすための研究に取り組んではどうか。

(2)『真田ならではの創出

多様な団体が一堂に会する機会を創ることで人のつながりができ、情報や意見を交換するなかで、新たなアイデアや活動が生ま

れるのではないかと。その中から、リーダーシップを執る人材や真田地域の特色あるモノが生み出されるきっかけになるのではないかと。

(3)ゆきむら夢工房を観光の拠点として活用

立地条件に優れる『ゆきむら夢工房』を真田地域の観光拠点として再認識し、地域で活動する団体が連携・協力して施設内の設備を有効に活用し、イベントを企画・運営 あるいは参加することにより、地域の情報発信拠点として『おもてなし』の機能強化と知名度向上が図れるものと考えている。また、これにより観光客のさらなる集客と地域間交流促進による地域の活性化に期待がもてる。

4 おわりに

全国的に知名度と人気が高い真田氏、豊かな自然、良質な農産物など、豊富な地域の魅力をより一層活用した物品や催しを地域住民が主体となつて考え、実行できる仕組みができることが、観光の振興や農業の活性化に良い効果をもたらす、地域経済の発展に寄与するものと考えます。



第2分科会

「公共交通の利用促進」

1 はじめに

第2分科会では、平成22年度から真田地域まちづくり方針の「地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備」における「住民生活の利便性の向上が図られるよう、公共交通機関の確保・充実」の具体化に向け、路線バスを維持するための取り組みについて協議をしてきた。

第3期協議会（H22～23）では、平成24年1月20日に意見書（①利便性に配慮し地域住民のバス利用を促進、②観光客のバス利用を促進）を提出した。

路線バス事業者は全て赤字経営であり、行政の補助を受けてバスを運行している。全国的には補助額の増加に対応できず廃線となる路線バスも多いなか、上田市では利用促進策として、平成25年10月1日から運賃低減バスを運行している。これは、運行経費補助から利用者補助に視点を変えるものである。

第4期協議会（H24～25）は、この上田市運賃低減バス運行計画と平成23年10月に発足した真田地域公共交通利用促進協議会の活動を踏まえ、公共交通の維持が必要であるという観点から、利用促進に向け利便性の向上について協議を進めてきた。

2 公共交通を巡る問題点

(1) 利用者の減少

自家用車の普及とともに道路整

備が進み車社会となり、路線バスは利用者が減少し、バス事業者の経営を圧迫している。左記表1は、上田バスの全路線の実績であるが、輸送人員・輸送収益ともに大きく減少し、輸送損益も赤字幅が大きくなっている。（表1参照）

(2) 過疎化・高齢化の進行

全国的に人口減少となりつつあるなか、真田地域も10年間で人口は7・6%減少し、高齢化率は4%上昇している。利用率を維持しても人口が減少すると利用者数は減少してしまう。（表2参照）

(3) 利便性の低下

利用客の減少により経費節減のため便数が減らされ、経営改善のために運賃が値上げされる。そのことが利用者の減少につながる悪循環により利便性が低下しつつある。

(4) 補助金の増加

真田地域の路線のうち、傍陽線は従来から廃止路線代替バスとして行政から補助を受けており、その補助金額も利用者の減少により年々増加しつつあるが、平成23年度から菅平高原線も補助対象となったため、補助金額が大きく増加している。（表3参照）

3 公共交通を巡る課題等

(1) バス路線維持のための補助金を減らす対策

(2) バス利用者の利便性の確保・向上

(3) 地域の公共交通は地域住民の手で守るという意識の浸透

(4) 補助金依存体質によるコスト削減やサービス向上意識低下の懸念

4 公共交通を「乗って残す」ために

(1) 「路線バス運賃低減化」の成否

上田市ではバス路線を確保・維持・活性化するため「運賃低減バス運行計画」を立案し、昨年10月から「路線バスの運賃低減化」の試行に取り組んでいる。京丹後市が、最高運賃1,140円を一律200円にして成功（収入増）しているように、かなり期待されるが、地域住民がバスに乗ろうと行動を起こすかどうかが成否の力ギとなる。

そのため地域住民、学校・PTA・諸団体・企業などに

出向いての説明や、有線放送を繰り返し活用するな

ど、制度の周知を図って欲しい。

また、自治会による「地域住民への回数券の購入付与」なども検討して必要がある。

(2) ゆきむら夢工房のバスターミナル化

「ゆきむら夢工房」前のバス停はバス待避所がないため、夢工房駐車場をバスターミナルとして活用することを提案する。それにより乗客の利便性向上と施設の利用増を促し、観光客に対する案内充実・おみやげ等の販売促進が図られる。

(3) 観光客のバス利用促進

トレッキング客や登山等の観光客による路線バス利用促進も検討に値すると思われる。また、バス停に観光案内パンフを置くなどの工夫も望まれる。

(4) ふれあいバスと路線バス・オレンジバス等との連携

それぞれ、目的が異なるバスであるが、先線への乗り継ぎ、途中下車など工夫した連携が望まれる。

(5) 定期券発行場所の増設

現在、真田地域内にはJA長店しか定期券の発行場所が無いため、ゆきむら夢工房・西友真田店・コンビニエンスストアなど発行場所の増設が望まれる。

(6) その他の利用促進策

イベント時の車掌復活を望む声もある。

(7) ゾーンまたは時間単位での運賃設定の検討

将来の課題として、同一ゾーン

であれば同一運賃で乗車できるような設定の検討が挙げられた。

5 おわりに

昨年10月から始まった「路線バス運賃低減化」の試行には、当分科会としても、大変大きな関心を持っており、なんとしても利用者の増加につながるよう、協力や努力を惜しまないところである。

路線バスの廃止は、高齢者や児童生徒、また自動車免許が無いなど公共交通に依存せざるを得ない人の移動の自由を奪うことになり、地域全体で公共交通のあり方を真剣に考える必要がある。路線バスを「乗って残そう」の掛け声のもと、「公共交通を地域の手で守る」という意識の浸透を期待して止まない。

そして、制度的な隘路の多い中で、少しでも改善策につながる幾つかの提言を試み、公共交通の利用促進が図れるよう、地道な努力を積み重ねたい。



■第3分科会

「福祉・防災・定住化の推進」

1 はじめに

第3分科会では、真田地域のまちづくり方針にある「安心して暮らせる地域づくり」のため、今の真田地域での課題は何かを考え、「福祉・防災・定住化の促進」の3つのテーマについて話し合いを進めてきた。

(1)福祉について

高齢者や障害を持つ人など、支援が必要な方への支援については、自治会ごと災害時要援護者登録制度（災害時住民支え合いマップ）へ登録し、取り組みが行われており、真田地域36自治会のうち、30自治会で取り組みを決定（9月末現在）している。また、未決定の自治会においても、担当課が説明会を開催するなど、制度への登録を呼びかけ、登録に向けて積極的な動きがある。今後、支援を必要とする方も安心して暮らしていくことができる地域づくりを望む。

(2)防災について

自治会ごとに自治会長がリーダーとなり、自主防災組織が作られ活動され、各自治会で行われる防災訓練では、自治会が消防署へ職員の訓練への参加や講師を要請し、自主防災の意識が高まりつつある。

特に、東日本大震災後は、住民の意識も高まり、防災訓練時に要援護者の安否や支援方法などの確認も行われ、福祉と防災の取り組みが結びつき、より実践的な活動が行われている。

ある自治会では、自治会とは別に自主消防隊を組織し、定期的な自治会内の見回りや訪問など地域の防災活動が積極的に行われている。消防団員も減少する中で、この取組事例も参考にしながら、今後も各自治会で積極的な防災活動が行われることを望む。

(3)定住化の促進について

全国的に人口が減少するなか、真田地域でも年々人口が減少し、高齢化率が高くなり、空き家や遊休荒廃農地が増加しており、このままでは地域が廃れてしまうのではないかと懸念する。先述の福祉や防災の取り組みにおいても、活動できる人が減り、支援を必要とする人の増加が予想される。真田地域に住む人がお互いに助け合い、支え合って安心して暮らすためには、地域の人口減少に歯止めを掛け、移住や定住により人口が増加し、地域が活性化することが重要と考え協議を進めた。

2 真田地域の現状

真田地域の人口減少に歯止めを掛け、真田地域へ移住・定住する人が増え、人口が増加し地域が活性化するための検討のため、人口減少の原因と真田地域の魅力について協議した。

(1)人口減少の原因として考えられること

①真田地域に就職先が少ない。

②路線バスの運賃が高かった。道路整備が遅れている。

③移住して就農を考えても、指導者がいらない、必要な機械も高額で購入できず、賃借もない。など営農しにくい環境ではない

か。また、子どもが家庭で農業を経験しない環境になっている。

④塾などが少なく教育環境が適さないためか、若い夫婦が転入しない。

⑤冬は雪が降り寒さも厳しく生活が大変。

(2)真田地域の魅力

①仕事は真田地域には少ないが、上田市街地などに行けばある。

②高速道路や新幹線が整備されたことにより都市へ行きやすい。

③30（サンマル）構想による交通網の整備計画により、上田市街地などへ行きやすくなっている。

④運賃低減バスの実証運行により、運賃が下がり、運行時間も拡大した。

⑤学校での農業体験では、家族からやり方などを聞き、祖父母に手伝ってもらうなど、地域との結びつきを大切にしている。

⑥自治会行事への参加や各小学校で行われている「ふれあい伝承広場」などで地元の歴史や文化など郷土を知ることができる。

⑦児童、生徒数は少ないが、学校や保育園などでは、一人ひとりに先生の目が行き届く。



地域内現地視察の様子

⑧保育園の待機児童がない。

⑨自然が豊かで自然災害が少ない。

3 真田地域への定住化促進のために

これまでの協議から、真田地域への定住化促進のための対策案を以下の3つにまとめた。

(1)「真田地域の特色がもっと出せるようなホームページ作り」

田舎暮らしを希望する人が情報を得る先はインターネットからの割合が高いと考えるが、上田市のホームページの移住や定住に係る情報は広域的で真田地域がPRされるページが少ない。

真田地域へ移住や定住をしたいという人が増え、実際に転入してもらうように、真田地域の情報や魅力をもっと発信できるページが必要と考える。

(2)「住民に真田地域のことを知ってもらうためのギャラリー造り」

真田地域に住む人に真田の魅力をもっと知ってもらうことで定住化を図りたい。地域の魅力を知ること、故郷への思いや誇りも深まり、進学などで転出した若者も故郷真田に戻ってくる。そして、その思いは次の世代へと引き継がれ、真田地域に定住する若者が増えていくのではないかと。

ギャラリーは、真田地域自治センターや真田図書館など立地場所的に住民が訪れやすい施設が有効利用できないかと考える。

(3)地元の子どもたちへの農業体験
地元の子どもたちが農業体験をとおして、真田の豊かな自然、収穫

の喜び、農業の良さを知ること、真田の地で農業を後継してほしい。

子どもたちは家で農業を営んでいても農業に携わることが少なく、親も会社等に勤務し生計を立てており、親子で農業に携わる機会が減っているのではないかと。学校での農業体験も取り組みに違いがあり、耕作するクラスもあれば、花壇になったところもある。一方、都会の学生が訪れる農業体験では、お茶請けの漬物やかえるなどの小動物に感動し、農業だけでなく、田舎の生活や自然を満喫していくと聞く。地域では当たり前のことでも都会の子どもたちには新鮮で感動的な体験の様子である。

地域の子どもたちに豊かな自然を守り農業を引き継いでもらうために、現在行われているイベントを継続、拡大していく方法があるのではないかと。学校の協力も得ながら、既存のイベントを継続・拡大してはどうかと考える。

4 おわりに

全国的に人口が減少する中で、各自治体でも移住、定住に向けた取り組みが進められている。

真田地域でも年々人口が減少し高齢化率も高くなっており、このままでは、地域住民がお互いに支え合って暮らしていくことも困難になってしまっているのではないかと。この危機感さえ覚える。

真田地域に住む私たちが、お互いに助け合い・支え合いながら安心して暮らすことができる地域であることを望む。

第4期 真田地域協議会 活動報告

	月 日	主な協議事項（本表内 ①は第1分科会 ②は第2分科会 ③は第3分科会を表す）
平成24年度 第1回	平成24年 4月17日	・地域公共交通（路線バス）について（地域交通政策課説明） ・真田地域自治センター各課の課題・目標について（センター各課長説明）
第2回	5月17日	・地域内分権の確立に向けた第4ステージの取り組みについて（市民参加・協働推進課説明）、意見交換 ・真田地域の予算概要、地域まちづくり方針、第3期真田地域協議会からの意見書に対する市からの回答について（センター各課長説明）
第3回	6月26日	これまでの協議会で検討した案件の成果や経過把握のため真田地域内を現地視察
第4回	7月18日	・今後の協議のテーマ及び進め方について協議、次のテーマごと3分科会に分かれて協議することを決定 第1分科会 地域ブランドの確立 第2分科会 公共交通 第3分科会 福祉・防災・定住化の推進
第5回	8月22日	分科会協議（①地域の活性化について ②夢工房バスターミナル化・ふれあいバスとの連携について、バス運賃低減化例について ③安心して暮らせる地域づくりについて）
第6回	9月13日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①ゆきむら夢工房の利活用について ②路線バスについて地域づくり委員会が出された意見について、他地域の取り組み事例について ③防災について）
第7回	10月17日	・真田地域自治センター各課の課題・目標の進捗状況について（センター各課長説明） ・分科会協議（①ゆきむら夢工房の充実について ②ふれあいバスについて、運賃の設定について ③人口減少の歯止めや若者定住化について）
第8回	11月14日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①ゆきむら夢工房でのイベントについて ②上田バスからバス運送の状況説明、利用対策促進について ③空き家・遊休荒廃農地について）
第9回	12月12日	・平成25年度真田地域の地域振興事業基金活用計画について（各担当課長説明）、承認 ・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①ゆきむら夢工房の活性化について ②利用促進対策について、真田地域公共交通利用促進協議会の活動について ③定住促進策について）
第10回	平成25年 2月20日	・長野県による都市計画区域マスタープランの見直しについて（都市計画課説明）、意見交換 ・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①地域の特色、蕎麦について ③定住促進、情報発信について）
第11回	3月19日	・わがまち魅力アップ応援事業審査（8件応募のうち5件について採択が適当との意見書を市長に提出） ・平成24年度わがまち魅力アップ応援事業の実績報告 ・運賃低減バス運行計画について（地域交通政策課長説明） ・平成25年度地域振興事業基金活用事業計画について（地域振興課長説明）、承認
平成25年度 第1回	4月17日	・真田地域自治センター各課の昨年度の課題・目標に対する期末報告及び今年度の課題・目標について（センター各課長説明） ・真田地域に係る当初予算の概要について（センター各課長説明） ・今年度の協議会の進め方について協議、昨年度に引き続き三つの分科会での協議継続を決定
第2回	5月15日	・真田運動公園整備事業に対する地域振興事業基金の活用について（真田地域教育事務所説明）、承認 ・分科会協議（①昨年度の協議概要確認と今後の方向について ②昨年度の協議概要確認と運賃低減バス運行計画について ③昨年度の協議概要確認と道路・交通網整備について）
第3回	6月19日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①地域内活動団体の連携について ②運賃低減バス運行計画の周知について、定期券の販売場所増設、乗継割引等の利便性向上について ③上田市ホームページ等閲覧、地域の魅力について）
第4回	7月17日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①地域内活動団体の連携について ②ふれあいバスについて、路線バスのゾーン制運賃について ③子どもたちの農業体験、自分の地域を知ることについて）
第5回	8月21日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①信州上田まつり実行委員会の取り組みについて ②運賃低減バス実証運行のお知らせ、路線バスとふれあいバスとの連携について ③定住促進、情報の発信について）
第6回	9月11日	・各分科会の協議概要報告及び分科会協議（①②③分科会中間報告案の検討）
第7回	10月16日	・わがまち魅力アップ応援事業審査（1件応募について採択が適当との意見書を市長に提出） ・各分科会協議の中間報告
第8回	11月13日	・真田地域自治センター各課の目標中間報告について（センター各課長説明） ・分科会協議（①②③分科会最終報告案の検討）
第9回	12月11日	・地域で活動する団体の連携等について講演（信州まつり実行委員会 事業部長 中澤信敏氏）、意見交換 ・平成26年度真田地域振興事業基金活用事業について（各担当課長説明）、承認
第10回	平成26年 2月19日	・地域内分権について（市民参加・協働推進課説明） ・平成26年度真田地域振興事業基金活用事業について（各担当課長説明）、承認 ・各分科会協議の最終報告
第11回(予定)	3月17日	・わがまち魅力アップ応援事業審査



消費税率引き上げに伴う 有線放送使用料等の改定のお知らせ

4月1日から有線放送使用料等を下記のとおり改定します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

●有線放送使用料（月額）

利用区分	改定前 (消費税5%込)	改定後 (消費税8%込)	増加額
専用回線(受話器+スピーカー)	1,785円	1,830円	45円
スピーカー単独	1,365円	1,400円	35円
附属受話器(1台につき)	260円	270円	10円

有線放送使用料は、2ヶ月分を奇数月に納付していただきます。

例) 平成26年4・5月分→5月末までに1,830円×2ヶ月分の3,660円を納付。

●放送手数料

利用区分	改定前 (消費税5%込)	改定後 (消費税8%込)	増加額
告別式関係(悲しいお知らせ)	630円	640円	10円

※その他の放送手数料は有線放送係にお問い合わせください。

平成26年度 真田有線放送モニター募集

真田有線放送は、放送内容の向上に役立てるため、番組やお知らせに関する感想や意見、身近にある話題などの情報を寄せていただくモニターを募集します。

応募条件▶有線放送係が指定した番組を聴くことができる方。

モニター期間▶平成26年6月1日から平成27年3月31日まで

モニター内容▶有線放送係の指定する番組を月1回モニターし、番組の感想などを所定の用紙に書いて郵送で提出していただきます。

応募方法▶直接、有線放送係まで御連絡ください。

応募締切▶3月28日(金)

○採用の方には、有線放送係から御連絡します。

○モニターとして活動していただいた方には謝礼を差し上げます。

☎ 地域振興課 有線2121 Tel72-2201



住民福祉や地域振興にご尽力され 表彰された方を紹介します

藍綬褒章を受章

花岡静枝さん(横尾)

平成6年に上小防犯協会連合会、初代女性部長に就任。子どもや高齢者を犯罪から守る活動に取り組まれました。

「受賞は一緒に取り組んできた皆さんのおかげ。被害に遭う人が少なくなるよう活動していきたい」と話されていました。



上田市功労表彰を受賞

●自治部門 大塚 巻雄さん(真田)
櫻井 昭雄さん(下原)

上田市農業委員会委員として、地域農業の発展に尽力されました。

●まちづくり表彰

真田地域公共交通利用促進協議会

真田地域の路線バス利用促進のため、市民協働による地域づくりの推進に尽力されました。

真田地域公共交通利用促進協議会から

昨年10月から始まった運賃低減バスの実証運行。上田バス(株)の12月末までの利用状況は、前年同月比で1.15倍となっています。

私たちの生活に必要な路線バスを存続させるためにもみんなで利用しましょう。

1月28日には、長小学校で路線バスの学習が行われました。

1、2年生37人は、バスガイドさんから路線バスの乗降の仕方を教えてもらい、バスの乗車体験をしました。「バスの入口にある丸いものはなんですか」との質問に「運転手と話ができるマイクです」と説明を受け、「どこまで行きますか」「上田駅です」とやり取りをしました。

また、3～6年生75人は上田バス(株)の社員から真田地域の路線バスの歴史について学びました。

6年間バスで通学した男子児童は「バスがあったから家族に送ってもらわなくても学校に来ることができた。これからも運行してほしい」と話していました。

☎ 建設課

有線2089 Tel72-4331





菅平中学校基礎スキー部生徒がスキー指導を体験



12月23日、菅平中学校基礎スキー部（指導者などを指導する生徒が所属）の生徒10人が菅平に修学旅行にきた中学生にスキー指導のアシスタントをしました。

菅平中学校基礎スキー部の生徒がアシスタントをするのは今回で2回目。スキーは初めてという修学旅行生に、ブーツの履き方や滑り方などインストラクターの補助をしながら指導の仕方を体験しました。

3年生の男子生徒は「スキーの用語などを分かってもらえるように説明するのが大変でした」と話していました。



今年も元気に遊べるように

1月15日、いずみ幼稚園でどんど焼きが行われました。この日は公開保育もあり、幼稚園に入園前の子ども達も一緒に参加しました。

園児たちが家から持ち寄った正月飾りやだるまを先生たちが積み上げ作ったやぐらに、園長先生が火を付けると、バンと大きな音を立てて燃える様子にキャーと声が上がっていました。

今年も元気に遊べるようにと願いながら残り火であぶった繭玉をいただきました。



子ども達の無病息災を祈って

2月7日、そえひ保育園の園児がわら馬にお餅を背負わせて道祖神をお参りました。年長、年中児は菰の道祖神、年少児は曲尾の道祖神、未満児は大庭の道祖神までわら馬を引いていき、「今年も元気ですぞるように」とお参りました。

2月8日には戸沢自治会でわら馬引きとねじ行事が行われ、大粒の雪が降る中わら馬を引いた幼児と母親が道祖神にねじをお供えし、元気に成長できるようお祈りをしました。



真田剣道スポーツ少年団が初稽古

1月11日、真田剣道スポーツ少年団の初稽古が真田体育館で行われ小中学生29人が稽古に励みました。この日、朝8時の気温はマイナス8.5度。体育館の中はジェットヒーターが付いていましたが、息は白く、足が痛くなるほど床も冷え切っていましたが、小さな剣士たちは寒さに負けず大きな声を出して稽古に励んでいました。

6年生の小林明日香さんは、「中学校へ行っても剣道をがんばりたい」と今年の抱負を話してくれました。



「少年剣道教育奨励賞」を受賞

真田剣道スポーツ少年団は、長年にわたり小中学生に剣道の指導をし、少年剣道の振興に実績を挙げているとして、昨年11月に全日本剣道連盟から「少年剣道教育奨励賞」を受賞しました。





祝! 成人式

祝 平成26年 上田市成人式



1月12日、平成26年上田市成人式が市内7会場で行われました。

今年成人式を迎えたのは、平成5年4月2日から平成6年4月1日に生まれた皆さんで、真田中央公民館で行われた式典には84人が出席しました。

式典では、新成人を代表して宮澤諒也さんみやざわりょうやが「私たち

の故郷がより一層希望の持てる住み良い地域になることを期待し、私たち新成人も社会を担う一員として、自分の目指す道を歩んでいきます」と誓いを述べました。

また、中学校時代の写真が思い出の曲とともにスクリーンに映し出されると、当時を懐かしむ声が聞こえてきました。



式典を企画、運営した成人式実行委員の皆さん



誓いの言葉を述べる宮澤諒也さん



姉妹都市 和歌山県九度山町児童と菅平小学校児童が交流



1月11日から13日までの3日間、和歌山県九度山町の小学5、6年生69人が上田市を訪れ、菅平小学校児童との交流や真田氏の学習などをしました。

12日は、菅平高原パインビークススキー場で菅平小学校4～6年生の児童34人とスキー交流をしました。

菅平小学校の児童は8班に分かれた九度山町児童の班に入り、インストラクターと一緒にスキー指導をアシスト。昼食時には自己紹介などが書かれたカードを交換し合い交流を深めました。

13日には、予定していた長谷寺の見学は降雪のためできませんでしたが、真田氏歴史館で真田氏について学んだり、ゆきむら夢工房では、真田の里そば打ち会の指導でそば打ちを体験しました。

真田図書館通信

おすすめの新着本

タイトル

著者等

出版者

【一般書】

- | | | |
|--------------------------|--------|------------|
| ●「絵本の記憶、子どもの気持ち」 | 山口 雅子 | 福音館書店 |
| ●「黒書院の六兵衛 上下巻」 | 浅田 次郎 | 日本経済新聞出版社 |
| ●「昭和の犬」 | 姫野カオルコ | 幻冬舎 |
| ●「昭和のくらし博物館」 | 小泉 和子 | 河出書房新社 |
| ●「食といのち」 | 辰巳 芳子 | 文藝春秋 |
| ●「ちょっと具合のよくない
ときのごはん」 | 岩崎 啓子 | 日東書院本社 |
| ●「翔ぶ少女」 | 原田 マハ | ポプラ社 |
| ●「ぼくは戦争は大きい」 | やなせたかし | 小学館クリエイティブ |
| ●「名軍師ありて、名将あり」 | 小和田 哲男 | NHK出版 |
| ●「恋歌」 | 朝井 まかて | 講談社 |

【児童書】

- | | | |
|-------------------|------------|---------|
| ●「ケーキになあれ！」 | ふじもと のりこ | BL出版 |
| ●「だるまなんだ」 | おおなり 修司 | 絵本館 |
| ●「よるのとしょかん」 | カズノ コハラ | 光村教育図書 |
| ●「和食のすべてがわかる本1・2」 | 服部 幸應 | ミネルヴァ書房 |
| ●「戦火の馬」 | マイケル・モーパーゴ | 評論社 |
| ●「鉄道きょうだい」 | E・ネズビット | 教文館 |
| ●紙芝居「おいしい!おいしい!」 | ひろかわ さえこ | 童心社 |
| ●紙芝居「じょうずじょうず」 | なとり ちづ | 童心社 |

「ゆきむらさまとじゅうゆうしたち」 シリーズの新作絵本が完成!



柳沢雄二さん（続珍真田太平記の作者）の絵本「雪光草 ゆきむらさまとじゅうゆうしたち」7巻と「実相院の鬼石」がこのほど完成し真田図書館に寄贈されました。

「ゆきむらさまとじゅうゆうしたち」シリーズは児童コーナーでも人気の絵本で37作品を収蔵しています。真田地域に伝わるお話など、ちいさなお子さんからご年配の方まで、親しみやすくわかりやすく描かれています。どうぞ、手にとってご覧ください。

☎ 真田図書館 有線2003 TEL72-8080

本に親しみ、豊かな心を 育むためのお手伝い

真田図書館

児童サービスをご利用ください

真田図書館では、子どもたちが小さな頃から本に親しみ、豊かな心を育むための環境づくりのお手伝いとして、児童サービスを行っています。ご利用ください。

児童図書コーナーの充実

図書館2階に小さなお子さん向けの絵本や紙芝居から中高校生向けの本を、約1万3千冊揃えています。大人の方にも十分読んでいただける本もたくさんあります。

ブックスタート事業 乳幼児健診・教室での 絵本の読み聞かせ

保健センターと連携し、4か月児健診とお誕生教室のときに絵本の読み聞かせをして、本との出会いの機会をつくっています。

また、4か月児健診時には、お勧めの絵本数冊の中から保護者の方に2冊選んでいただきプレゼントしています。

おはなし広場

図書館と図書館サポーターの会との協働で、毎月第3土曜日の午前10時30分から児童図書コーナーを中心に、おはなし広場を開催しています。サポーター6団体の皆さんや図書館職員が、絵本の読み聞かせ、真田地域に伝わる民話、紙芝居、パネルシアター、腹話術、手遊びなどをします。

夏休み・春休みおはなし会

小学校等の長期休みにあわせ、図書館職員が絵本の読み聞かせや紙芝居などをします。